

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立明保小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 105人 算数 105人 理科 105人

第5学年 国語 88人 算数 88人 理科 89人

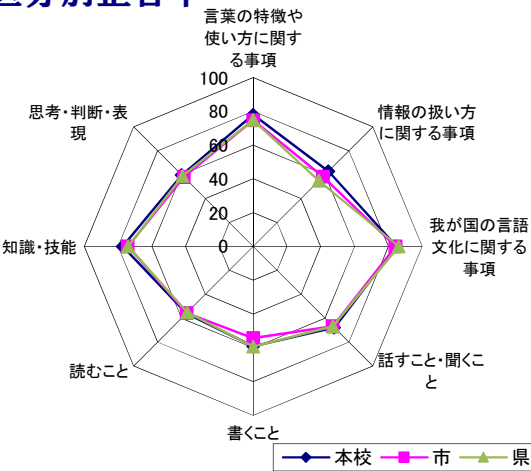
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立明保小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.0	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	62.9	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	84.8	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	67.9	66.7	66.9
	書くこと	59.1	54.3	59.3
	読むこと	56.0	55.6	55.2
観点	知識・技能	77.2	74.1	74.0
	思考・判断・表現	59.7	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

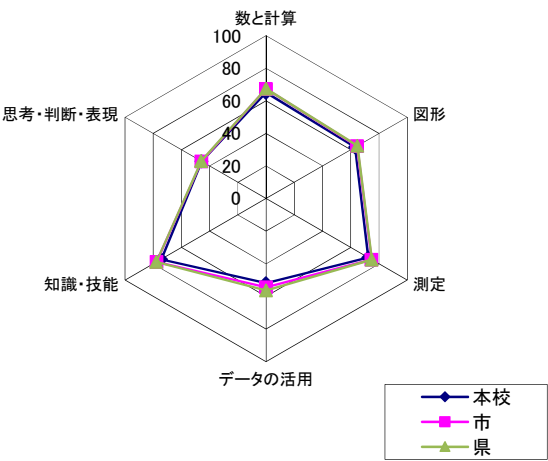
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均より高い。 ○「第3学年に配当されている漢字を正しく読む」設問では、県の平均正答率を上回り、それぞれに90%を超えている。漢字テストをこまめに実施した成果が表れている。 ●「第3学年に配当されている漢字を正しく書く」設問では、県の平均正答率を上回っているが、漢字を読むことに比べると平均正答率は下がる傾向にある。 ●「ローマ字で表記されたものを正しく読んでいる」という設問では県の平均正答率を6.7ポイント下回っている。bとdを間違えて覚えていることによる誤答が多かった。	・漢字ドリルやAIDリル等を活用し、漢字の読み書きの練習を繰り返し行い、定着を図る。 ・文章を書く際は、習った漢字を使って書くよう習慣付け、漢字を書く機会を増やしていく。 ・漢字テストを実施する際には、熟語や短文で行い、日常生活の中で使えるように指導する。 ・一人一台端末を利用してローマ字入力をする事により、ローマ字に触れる機会を多く設け、ローマ字の読み書きの定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均より高い。 ○「国語辞典の使い方を理解している」についての設問では、県の平均正答率を上回っているが、平均正答率は6割程度に留まった。文脈に合った「うるさい」という言葉の意味を、正しくとらえられた児童が少なかった。	・国語辞典を用いて調べる活動をより多く取り入れ、3つの索引に慣れるようにするとともに、学校図書館司書と連携し、国語辞典を気軽に活用できる環境を整える。 ・国語辞典では、一つの言葉に対し、複数の意味が書いてある。意味を調べる際には、文章の中の言葉がどの意味をあらわしているのか正しく捉えられるように指導する。 ・語彙力を増やすための取り組みとして、熟語リレーなど児童が楽しみながら言葉を受得する活動を工夫をする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、県の平均よりやや低い。 ●「漢字のへんやつくりを理解している」の設問では、県の平均正答率を1.3ポイント下回っている。	・新出漢字の学習では、「へん」や「つくり」について意識させ、漢字の構成についても理解できるように板書や掲示を工夫したり、デジタル教材を活用したりする。 ・漢字の「へん」については、曖昧に記憶していることでの誤答が目立ったため、「○へんの漢字集め」など、児童が漢字の「へん」に興味をもって取り組むことができるような活動を工夫する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均よりやや高い。 ○「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができるかどうかをみる」設問では、県の平均正答率を9.3ポイント上回っている。朝の会等を活用して、ペアトークやスピーチを実施してきた成果と考えられる。 ●「司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることができるかどうかをみる」設問では、県の平均正答率と同程度であるが、正答率は3割に届かな結果となった。記述式の解答のため、無回答率も高かった。	・「話す・聞く」単元では、児童一人一人に相手の話したいことは何かを考えて聞くことを意識させるとともに、整理してメモを書くことができるように指導する。また、日常生活においても、話を正確に聞くことの意識付けを図るため、「話し方・聞き方」のポイントについて随時掲示物を確認していく。 ・引き続き、朝の活動や朝の会等を活用し、スピーチやペアトークを実施していく。その際、話すときには、相手に伝わるように理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるように話すことを意識させていく。
書くこと	平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○「自分の考えの理由や事例を明確にして書く」設問では、県の平均正答率を5.3ポイント上回っている。 ●「2段落構成で文章を書く」設問では、県の平均正答率を10.2ポイント下回っている。	・視写や短作文等の指導を取り入れ、文章の書き方を指導するとともに、正しい作文用紙の使い方についても指導する。 ・段落構成など、指定された条件で文章を書くことに慣れていない児童が多いため、文章を書く課題を提示する際は、段落や文字数などの条件を指定し、書く練習を積み重ねられるようにし、文章を書く力の向上が図れるように工夫する。
読むこと	平均正答率は、県の平均よりやや高い。 ○物語文の「登場人物の気持ちについて、叙述をもとに捉えることについての」設問では、県の平均正答率を2.8ポイント上回っている。 ●説明文の「叙述を基に文章の内容を捉える」の設問では、県の正答率を3.9ポイント下回っている。	・説明文の読み取りでは、その段落には何が書かれているのか、キーワードを見付け出すために線を引いたり、段落相互の関係に注意して内容を読み取ったりする時間を十分に設ける。 ・物語文の読み取りに比べ、説明文の読み取りが低かったため、それぞれの読み取り方の違いを指導する。 ・読書活動を充実させるため、授業で扱った教材に関連する本を学級文庫に置いたり、おすすめの本をお互いに紹介し合ったりする活動を取り入れる。

宇都宮市立明保小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.0	67.3	67.4
	図形	63.1	64.5	64.7
	測定	72.4	74.7	74.9
	データの活用	51.9	54.4	56.4
観点	知識・技能	74.3	77.6	77.8
	思考・判断・表現	45.7	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

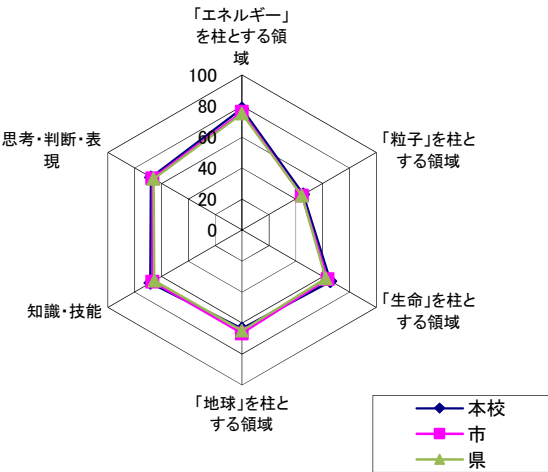
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均より低い。 ○「数量の関係について口を使って正しく表された図を選ぶことができる」設問では平均正答率が86.7%で、県の平均正答率を5.8ポイント上回った。 ●「式の意味を正しく捉え、言葉で説明することができる」設問では、平均正答率が12.4%であり、県の平均正答率を1.2ポイント下回った。また、「2けた×1けた=3けたの計算ができる」設問では、平均正答率が74.3%であり、県の平均正答率を9ポイント下回った。位がずれている誤答が多く、また無回答率も高かった。	・基礎的な計算の習得に向けて、朝の学習や家庭学習を通して基礎的な計算問題の演習を繰り返し行い、確実な計算力の向上と定着を目指す。 ・計算の答えを見積もる習慣を身に付け、間違いに自分自身で気付くことができるように指導する。 ・式を言葉で説明することについて、授業内で個でじっくり考える時間を多く設け、ペアやグループで考えを共有する中で言葉にして思考を表すことに慣れることができるようにする。
図形	平均正答率は、県の平均より低い。 ○「半径と直径について理解し、球の性質を利用し長さを求めることができる」設問では平均正答率が73.3%で、県の平均正答率を8.6ポイント上回った。 ●「二等辺三角形を作図することができる」設問では、平均正答率が79.1%で県の平均正答率を5.3ポイント下回った。 また、「円の性質を考え、コンパスを使って正三角形が作図できることを説明することができる」設問では、平均正答率が29.5%で県の平均正答率を3.9ポイント下回った。円の半径が等しいことは理解できているが、無回答率が高かった。	・デジタル教材や模型を活用しながら、円や三角形、四角形、球等、様々な図形を立体的・視覚的に捉え、定義を理解できるようにする。 ・コンパスを使った作図について、直径、半径、中心などの言葉を書き入れ、円や球の性質理解を図っていく。 ・コンパスや分度器などの扱い方を再度確認する。また、用具の扱いが苦手な児童は個別に支援し、正しく作図できるように指導する。
測定	平均正答率は、県の平均より低い。 ○「身近な物の重さについて、およその見当をつけることができる」設問では、平均正答率が82.9%で、県の平均正答率を2.7ポイント上回った。 ●「地図から道のりを読み取って、その和を求めることができる」設問では、平均正答率が81.9%で、県の平均正答率を6.1ポイント下回った。また、「はかりの目盛りを読み取り、重さを答えることができる」設問では、平均正答率が47.6%で、県の平均正答率を3.5ポイント下回った。	・自分の日常生活と様々な単位の結びつきに気付かせ、単位への興味や仕組みの理解を深めていく。 ・授業の中で体験的な活動を実施するために教材・教具等の充実を図り、実感を伴った理解ができるよう工夫する。 ・はかりや定規を読み取る演習を繰り返し行い、1目盛りを正しく読む意識がもてるように声掛けをし、定着を図る。
データの活用	平均正答率は、県の平均より低い。 ●「二つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取る」設問では、平均正答率が18.1%で県の平均正答率を5.5ポイント下回った。1めもりの大きさを確認してグラフを読み、問題文と比較して正しい解答を選ぶことができていなかった。	・棒グラフの読み取りについては、グラフのもつ意味や目盛りの付け方、読み方をより丁寧に一つずつ見ることが意識させることにより、その特長や用い方の理解につなげていきたい。 ・棒グラフの説明文の読み取りについては、文章の言葉の意味を一つずつ丁寧に読み解く練習を繰り返し行い、問題の解き方や意味の理解につなげていく。

宇都宮市立明保小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	78.4	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	45.7	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	65.9	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	63.6	66.6	64.9
観点	知識・技能	68.3	66.8	65.4
	思考・判断・表現	67.8	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均より高い。 ○「鏡で反射した光の進み方の理解」を問う設問では、平均正答率が95.2%で、県平均を4.2ポイント上回った。 ○「電気が流れるつなぎ方」や、「豆電球に明かりがつく回路を選ぶ」設問では、それぞれに平均正答率が85%を超えており、よく理解できていた。 ●「実験の結果として適切な記録を選ぶ」設問では、平均正答率が61.9%であり、県の平均を1.6ポイント上回っているが、実験の過程及び、問題をよく読んでいないことによる誤答が多く、平均正答率が7割に届かなかった。	・様々な活動で目的に合わせて読むことを取り入れることで、問題の意図を読み取る力の育成を図る。 ・予想、実験、記録、結果をもとに考察、概念化、という学習活動の中で、個で考える時間、意見交換をして問題を解決する時間、それぞれを確保し、理解を深めさせる。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均よりやや高い。 ○「ものの重さから、同じ種類の木でできた積み木を推測する」設問の平均正答率が81.9%で、県の平均を4.1ポイント上回った。 ●「姿勢を変えて測った体重がどのようになるかを結果をもとに記述する」設問では、平均正答率が4.8%と低く、県の平均を5.1ポイント下回った。姿勢を変えてはかった体重が、変わらないことは理解できているが、その理由を記述することができていなかった。	・様々な授業において、書く活動を取り入れることにより、自分の考えを書いて表現する力の育成を図る。 ・具体物を用いた体験を想起したり、実験結果から、自分で考察する時間と、意見交換をしながら問題を解決したりする時間を十分に確保し、理解を深めさせる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均より高い。 ○「トンボの育ち方とモンシロチョウの育ち方の違いの記述」は、76.2%で、県の平均を3.2ポイント下回ったものの、トンボがさなぎにならないことを理解し、比較して記述できている児童が多かった。 ○「昆虫の体のつくりや成長の違い」については、各項目において、平均正答率が県を超えているものが多く、よく理解できていることが分かる。 ●「ホウセンカの成長についての理解」を問う設問が12.4%と低く、県の平均を3.6ポイント下回った。花が咲いた後に実がなることを理解していないための誤答が目立った。	・校庭などの身近な自然に目を向け、日ごろから、疑問に思ったことを観察したり調べたりできるように支援していく。 ・各学習内容で得た結果を整理分析し、総合的にまとめることでより深い学びを得られるように学習計画を立て実践する。 ・実物や写真などを見る際に、大切なポイントを話し合い、児童の知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均よりやや低い。 ○「観察の記録から、かげと太陽の位置の関係を読み取る」設問は、平均正答率が91.4%で、よくできていた。 ●「かげと太陽の位置関係」は理解しているものの、「太陽がどの方位を通過して移動するか」の設問については、51.4%に正答率が下がっている。南を通ることが理解できていなかった。 ●「温度計の使い方を選ぶ」設問では、12.9ポイント、「日なたと日かげの地温の変化の理解」を問う設問では、3.6ポイント、県の平均を下回った。	・温度計等、目盛りを読み取る学習を、他の教科や活動の中で繰り返し行うことにより、正確に読み取る力の育成を図る。 ・文章、図(絵)、表、グラフに関連付けて考える活動を授業の中で意図的に展開する。 ・具体物を用い、五感に訴える活動を意図的に設定し、生活の中で体験したものと結び付けて考えることで、児童の知識の定着を図る。

宇都宮市立明保小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習に関する設問では、「家で学校の宿題をしている。」において、肯定的に回答している児童は95.2%であり、学習時間に関する設問においても、30分以上、家庭学習に取り組んでいると回答している児童は76.3%であり、宿題に取り組む習慣がしっかりと身に付いていることが伺える。また、宿題以外に自分で考えた学習に取り組んだり、自分で計画を立てて学習したりしていると回答している児童の割合は、それぞれを70%を超え、いずれも市の平均を上回っている。これは、家庭学習強化週間を設けたり、自主学習の仕方を指導したりするなど、学校全体で家庭学習の取り組み方について指導してきた成果と考えられる。今後もこの取り組みを継続するとともに、家庭学習において、授業の復習やテストで間違えた問題を解き直したりするなど、より学力向上につながり、達成感が得られる家庭学習ができるように指導していく。

○「学校のきまりを守っている」「学校での役わりや係の仕事にせきになをもって取り組んでいる」では、いずれも肯定的回答が90%を超え、規範意識が育っていることが伺える。今後もよい行動を称賛しながら、正しいことを自分で判断して行動できるように指導する。さらに、高学年に向かい、係や当番活動等を通して一人一人が活躍できる場を設け、みんなのため、学校のために進んで働くことができるよう支援していく。

○「自分には、よいところがあると思う」「だれに対しても、思いやりの心をもってせつしている」「しょう来の夢や目標をもっている」では、いずれも肯定的回答が85%を超え、市の平均を上回っていることから、児童は自分のよさに気付き、自分も友達も大切にしながら、日々の生活を送っていることが分かる。さらに、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分は家族の大切な一員だと思う」の設問においても、肯定的回答はそれぞれ85%を超え、家族との温かな関係が、児童の自己肯定感を高めていることが伺える。今後も、授業や帰りの会等において、お互いのよさを見つけ、伝え合う活動を継続し、さらに、家庭への情報発信を行っていく。

●読書に関する設問では、1日当たりの読書時間は10分～30分と回答した児童の割合が26.7%と一番多く、市の平均に比べ、読書時間が少ない傾向にある。さらに、全く読まないと回答している児童の割合も高い。また、1か月当たりに読む本の冊数についても、1～2冊と回答している児童の割合が高く、市の平均に比べると、読む本の数も少ないことが分かる。読書の時間や休み時間等に、読書に親しむ様子は見られるが、文字が少ない本やキャラクターの物語が読まれている傾向にある。今後は、図書館司書との連携を図り、学年に見合った内容の本や児童が興味をもって読むことができる本を紹介するなど、より本に親しみ、読書の習慣が身に付くように指導していく。

●「授業では、自分の意見を発表する機会が与えられている」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の設問では、肯定的回答がそれぞれ80%を超えており、話し合いの時間や発表する機会が設けられていることが分かる。一方で、「グループの話し合いに自分から進んで参加している」では、肯定的回答が66.6%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」では、肯定的回答が51.5%に留まり、市の平均よりも低い傾向にある。授業の様子からも、自分の意見や考えをもっている、それを相手に伝えることが苦手であったり、うまく伝えることができなかったりしている。今後は、ペアやグループ等で自分の考えを伝える経験を積み重ね、それぞれの考えや意見の良さを認め合いながら、自信をもって発表できるように指導していく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と回答した児童は、72.4%であり、市の平均を大きく上回っている。さらに「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは辞書を使って調べている」の設問に肯定的に回答した児童は55.3%であり、市の平均を下回っている。この結果は、国語の領域「情報の扱い方に関する事項」及び「書くこと」にも表れ、それぞれに平均正答率が6割程度に留まった。今後は、ふり返りを書く時間を設けたり、分からない言葉や漢字を辞書で調べたりするなど、様々な活動と教科との関連を図りながら、日常生活の中でも文章を書いたり辞書を使ったりする経験を積み重ねられるように工夫していく。

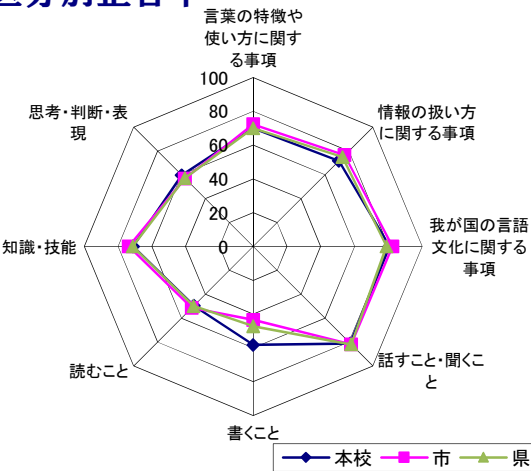
●睡眠時間に関する設問では、5.7%の児童が平日の睡眠時間は6時間以下と回答した。県の平均と比較しても、十分な睡眠時間が取れていない児童の割合が多く、睡眠時間の確保が本校の課題である。平日にテレビやDVD、動画を見る時間が2時間以上と答える児童が62.8%いることから、それらに熱中してしまい睡眠時間の確保ができていないと考えられる。テレビでYouTubeなどの動画サイトが視聴でき、個人のスマートフォンやタブレットを持つ児童も増えてきているなど、熱中しやすい環境があることも一つの要因だと考えられる。デジタル機器を使う時間を各家庭で決めていただくことを呼びかけたり、誘惑に負けずに自分で時間の管理をしたりできるよう指導していく。

●平日に携帯電話やスマートフォンで通話やメールを30分以上やり取りをすると26.7%の児童が回答した。ネットトラブルの未然防止として、受け取り側の気持ちを考えた、言葉づかいや言葉の選び方など、情報モラルについての指導をしていく。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.0	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	71.6	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	80.7	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	81.3	81.9	82.0
	書くこと	58.2	43.5	47.2
	読むこと	49.7	51.4	49.8
観点	知識・技能	71.1	73.6	71.3
	思考・判断・表現	59.7	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

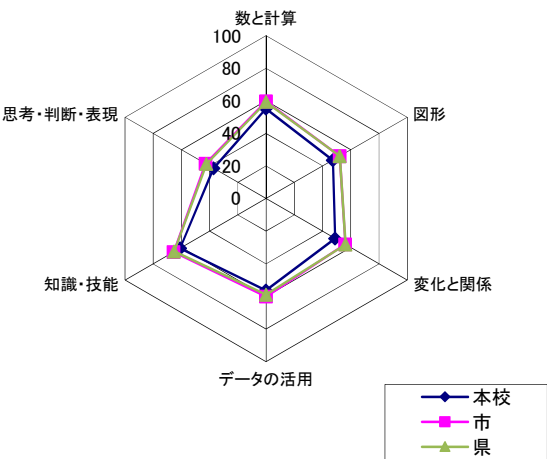
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均と同じである。 ○第4学年に配当されている漢字を正しく読むことがよくできている。朝の学習に学校全体で取り組んでいる漢字ステップアップの成果であると考えられる。 ●第4学年に配当されている漢字を正しく書くことには、課題が見られるが、漢字によっては、県の平均正答率を20.2ポイント上回るものもある。 ●「修飾と被修飾の関係を捉える(連体修飾語)」設問は、県の平均正答率を15.9ポイント下回り、課題が見られる。	・漢字ドリルやAIDドリル等を繰り返し活用し、漢字の読み書きに多く触れる機会を設ける。 ・朝の学習や家庭学習において、漢字の読み書きや連体修飾語の復習を行い、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均より低い。 ●「漢字辞典の使い方を理解し、使うことには、課題が見られる。	・国語辞典を用いて調べる活動をより多く取り入れ、3つの索引の使い方に慣れるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、県の平均より高い。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができている。	・言葉の学習では、学習方法を工夫し、児童の興味を高めながら、さらに定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均よりやや低い。 ○相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すことは、よくできていた。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉える」「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える」ことについては、課題が見られる。	・「話す・聞く」単元では、児童一人一人に相手の話したいことは何かを考えて聞くことを意識させるとともに、必要に応じて、整理してメモを書くことができるように指導する。 ・国語の時間だけでなく、日常生活においても、話を正確に聞くことの意識付けを図るため、「話し方・聞き方」のポイントについて随時掲示物を活用し指導していく。
書くこと	平均正答率は、県の平均より高い。 ○指定された長さで文章を書くことは、よくできている。 ○段落の役割について理解し、2段階構成で文章を書くことは、よくできている。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことは、よくできている。目的に応じて書く習慣が身に付いている。	・今後も作文や日記など文章を書く機会を設け、段落を意識した文が書けるように指導する。 ・自分の意見とその根拠をはっきりさせて書くことができるよう、日常のノート指導でも具体的に働きかけていく。 ・視写など短作文の指導を取り入れ、文章の書き方と共に作文用紙の使い方の指導をしていく。
読むこと	平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○「文章を読んで感じたことや考えたことを共有することができるかどうかをみる」設問では、平均正答率が県より8.4ポイント上回っている。 ●物語文の「登場人物の気持ちの変化について、複数の叙述を結び付けて具体的に想像する」ことについては、課題が見られる。 ●説明文の「叙述を基に文章の内容を捉えることができる」については、課題が見られる。	・文章を読む活動では、最後まで文章を読む時間が必要なので、速読できるよう、指導していく。 ・物語文の読み取りでは、登場人物の気持ちを行動や台詞など、教材文の叙述に着目させて考える学習を重点的に指導していく。 ・説明文の読み取りでは、段落から重要となる語を見付けて線を引いたり、書き出したりして、段落相互の関係に注意して読み取ることができるようにする。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.2	59.7	59.2
	図形	47.2	52.1	52.1
	変化と関係	48.9	56.1	56.3
	データの活用	56.3	60.1	58.9
観点	知識・技能	61.0	65.5	65.1
	思考・判断・表現	37.3	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

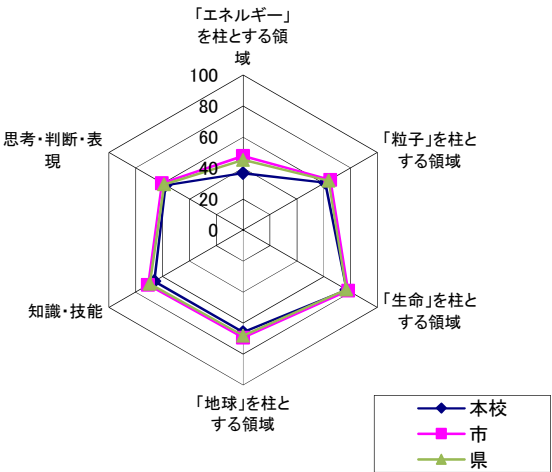
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○小数の大きさを考え、正しい順に並んでいるものを選ぶことがよくできている。数の表し方の仕組みに着目し、記数法や数の大小比較を考える学習を進めてきた成果であると考えられる。 ●数直線上に矢印で示された数を分数で表すことに課題が見られる。	・今後とも、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して大小比較や計算ができるように、記数法や目的に合った表現方法を選択する学習を行っていく。 ・分数の大きさについては、3・4年生を通じて数直線を用いた指導を大切にし1を何等分したかに着目させながら分母と分子の意味を理解できるようにさせる。特に4年生の指導では3年生の学習の復習を取り入れながらつながり大切に指導を工夫する。
図形	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○三角定規を利用して、正しい角度を選ぶことがよくできている。図形の角の大きさを測定したり、示された角の大きさを作り確かめたりする学習を積み重ねてきた成果であると考えられる。 ●面積の単位の関係を説明することに課題が見られる。	・図形の学習では、辺の長さや構成要素の数だけでなく、図形の角の大きさに着目して、図形を多面的に考えることができるように学習を行っていく。 ・長方形や正方形、及びそれらを組み合わせた図形の面積を求める学習では、単位となる正方形がどのように並ぶのかを考えさせ、その図から立式させる学習を行うなど指導を工夫する。
変化と関係	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○表を横に見ることで、伴って変わる二つの数量の関係を読み取ることがよくできている。二つの数量の関係を表で表すことで、表の数値の間の関係から、一方の数量が増加するときの他方の数量の変化の様子が捉えやすくなることをおさえた学習の成果と考えられる。 ●伴って変わる2つの数量の関係について分かることを説明することに課題が見られる。	・身近な事柄から伴って変わる二つの数量の関係を見出し、表や式を用いて表し、数量の間の変化や対応の特徴を考察して規則性などを見付けていく学習を行っていく。 ・二つの数量の間の変化や対応の特徴を考察して規則性などを見付けていく学習では、表を用いて変化や対応の規則性などを見いだすことを考察の基本とし、対応の規則性などを次第に式で考察していけるようにする。
データの活用	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取ることがよくできている。身近な事象について、項目を二つ選び、分類整理して表を用いて表したり、そうした表を読んだりする学習を積み重ねてきた成果と考えられる。 ●二次元表を読み取って書き込み、条件にあてはまる人数を答えることに課題が見られる。	・目的に応じてデータを集めて分類整理し、特徴や傾向に着目して適切なグラフを選択して表すことで判断したり、結論について考察したりすることを、算数以外の教科の学習でも進める。 ・身近なデータの分類整理についてA、B二つの観点からみて四つの場合を考え、論理的に起こり得る場合を調べたり、落ちや重なりがないように考えたりする学習を行うようにする。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	36.7	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	61.2	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	77.1	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	65.9	69.5	68.1
観点	知識・技能	66.2	70.8	69.5
	思考・判断・表現	57.7	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ●乾電池と検流計、モーター（豆電球）をつなぐ問題であったが、「並列つなぎ」の名称を答える、検流計で何が調べられるか答える、電流が大きく流れる回路を選ぶことが十分に理解できていない。特に無答率が高い。	・各自の教材で実験を行っているが、何のための実験かめあてを明確にし、自分が作った回路を回路図にまとめたり、分かったことを自分の言葉でまとめさせたりすることを継続して指導していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○ボールに空気を入れると弾む理由について説明した文に当てはまる言葉を答える問題は、よくできている。 ○金属の熱による体積の変化についてはよく理解し説明できている。 ●短答式、記述式の場合の無答率が高く、文章を読んで言葉を当てはめたり、「○○に着目して」説明したりすることに課題が見られる。	・閉じ込めた水や空気を押し縮めたときの違いが十分に理解できていないので、実験の時の視点、どこがどう違っているのかを明確にし、まとめる際も違いをキーワードにしてまとめる指導をしていく。 ・まとめ、ふり返りを書かせることで、文章で書く力を高めていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○季節によるサクラの様子の変化については、よく理解し正答率が高い。 ●ヒトの体の「関節」という名称を答える問題は、正答率が低い。重要な語句を覚えていない傾向が見られる。	・1年間を通して学校内の動植物を観察したり、季節感がある話題を授業の初めに取り上げたりして、季節による変化を感じ取らせていく。 ・自分の体に関心をもたせ、他の動物と比較しながら共通点や相違点を見出すようにする。実際に触れたり、写真やビデオ映像を見たりすることで筋肉と骨のはたらきをしっかりと押さえる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○砂の粒の大きさによる水たまりのできやすさ、水槽の水が蒸発によって減ることについては、よく理解し正答率が高い。 ●数時間後の星の並び方と見える位置についての正答率が低い。授業では、星座早見やビデオ映像での説明になるので体感できないのが課題と思われる。	・月や星の動きについて、ビデオ映像や星座早見を使って授業で指導するとともに、家庭にも協力を依頼し実際に夜空を観察させる。 ・校外学習などで子ども科学館のプラネタリウムを利用することも考える。

宇都宮市立明保小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答した児童の割合は、67.4%で、市の回答を6.9ポイント上回った。学校として家庭学習週間設定したり、学年に応じた家庭学習を推奨してきた成果が表れている。今後も、学年で取り組んでいる家庭学習カードを活用しつつ、個々の指導に努める。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」と回答した児童の割合が、市や県の回答をどれも大きく上回った。児童は、自分の興味や関心のある事柄に対して、探求心を抱き進んで学習することができている。引き続き、様々な学習活動を通してより学びを深めていくことの面白さや楽しさに触れるようにしていく。

○「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」と回答した児童の割合は、85.4%で、市の回答を8.3ポイント上回った。学習の習慣が身に付いている。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童の割合は、54.0%で、市の回答を3.1ポイント上回っていた。友達と話し合いながら、考えを比較したり、まとめたりする活動を積極的に取り入れた効果が表れている。今後も、自分の考えをもち、前向きに話し合い活動ができるように活動を工夫し、学級の雰囲気づくりに努める。

●「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻こくに取り組むようにしている」と回答した児童の割合は、57.3%で、市の回答をポイント下回った。家庭学習が習慣化し、児童が前向きに取り組めるように声を掛け指導していく。

●「学校の授業以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか」に「1時間未満」と回答した児童の割合は14.7%と市の回答より1.1ポイント上回った。学校で推奨している1時間に近付くよう、個別での指導に努めていきたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)」「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームをふくむ)をしますか」に「2時間以上3時間より少ない」と回答した児童の割合は、27.0%と市や県の回答を上回った。また、「3時間以上」と回答した割合は、市や県を下回る結果だったが、3割以上となり、長時間触れている児童が多くいることが分かる。再度1日の時間の使い方を見直し、時間制限などのルールを設定を、家庭と連携を図りながら節度を持った使い方の指導に努めたい。

宇都宮市立明保小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着	宮つ子学カステップアップシートやAI型学習ドリルの活用を年間通して実施している。 家庭学習強化週間の設定や家庭学習啓発資料の配付を通して、家庭との連携を図り、主体的に家庭学習に取り組めるようにしている。 少数指導や習熟度別学習など、学習形態を工夫することで、個に応じた指導を行っている。	4・5年生ともに、前学年に配当されている漢字の読みはよくできているが、書くことや計算など、基礎的な知識や技能に関わる問題における平均正答率が、県や市の平均よりも9ポイント以上低いものがある。「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻こくに取り組むようにしている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生は57.3%、5年生は50.5%で、県や市の平均より8ポイント以上低い。「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」への肯定的回答は、4年生が67.4%、5年生が70.4%で、ともに県や市の平均より約6～9ポイント以上高い。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善	授業の導入では課題を明確にし、展開では、個別に考える時間を確保し、ペアやグループで課題解決を行い、終末では学習のまとめや振り返りを行うことで、学習内容の定着を図っている。	「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生は86.7%で県や市の平均より6ポイント以上高く、5年生は86.6%で約2～3ポイント高い。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生は86.7%で県や市の平均より約6～7ポイント高く、5年生は79.8%でほぼ同じである。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙調査において、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という設問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生は72.4%、5年生は60.7%いる。	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、自分の考えを書く際に、字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなどの提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。さらに、始めから完璧な解答を求めず、児童に寄り添いながら思考の過程で励ますことで自信をもたせたり、友達の良い文章を提示して参考にさせたりし、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。
質問紙調査において、「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」については、本校の目標とする時間に達していない児童の割合が、4年生は約20%、5年生は45%いる。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	家庭学習に継続的に取り組むことができるよう、「家庭学習の進め方」等を活用しながら計画の立て方や内容についての指導を定期的に行ったり、「家庭学習カード」に取組内容や時間を記録させたりする。また、家庭との連携を図れるよう、啓発資料等を活用して保護者の意識を高められるようにする。 関心意欲を高める授業を工夫し、家庭での学びにつなげるよう働きかけをする。